

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

第2回検討の流れ

- 委員会・研修スケジュールの確認 (p.2)
- フォローアップ研修の全体カリキュラムの確認 (別紙 資料5)
- **項目別検討事項** (p.3~p.22)

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

スケジュール

※あくまでも現時点での予定となります。

R 4 年度	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月
研修実施		基礎研修 2回 計4日間			専門研修 2回 計4日間			フォローアップ研修 2回 計4日間	
カリキュラム 検討	第1回					第2回	第3回		第4回
主な検討項目	・前年度の振り返り ・講師の決定 ・フォローアップ研修 演習の検討課題 整理					・フォローアップ研修講 師の決定 ・フォローアップ研修 カリキュラム検討	・フォローアップ研 修教材検討、 ワークショップ用資 料作成		・フォローアップの反 省点の振り返りと年間 まとめの回

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

1. 専門研修の振り返り

獲得目標

- 専門研修で学んだことを振り返る。

講義時間

30分

講師候補

岩崎 香 様

内容

※演習なし

(国実施要綱：「専門研修の振り返り」)

- 基礎研修で学んだこと
- 専門研修で学んだこと
- フォローアップ研修について

事務局からの伝達事項

- 本項目の前の事務局オリエンテーションとの棲み分け
 - ・事務局オリエンテーション：研修の全体像
 - ・本項目：基礎・専門で【具体的にどのようなことを学んできたか】を一通り振り返る

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

2. 障害特性

※演習なし

獲得目標	●お互いの障害に関する理解を深める。多様な障害領域におけるピアサポート活動について学ぶ。
-------------	--

講義時間	60分
講師候補	5 障害領域から (精神・身体・知的・高次脳・難病)

内容

(国実施要綱：「障害領域ごとの障害特性」)

- 5 障害領域 (精神・身体・知的・高次脳・難病) の定義・範囲・状態等について
- 各障害領域における多様なピアサポート活動について

事務局からのご相談事項

<p>□ 時間配分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者からも他の障害領域への関心の声寄せられたので、障害への相互理解を深められるように、「社会的な視点でどんな困難があるのか」「障害ならではの生きづらさ」などに重きを置いてお話いただく。 → 1 障害領域につき、12分 (12分×5 = 60分) ※時間切替は、事務局進行にて行う。 ＜12分間のうちの時間配分＞ 障害の定義等の説明：8分～10分・障害領域におけるピアサポート活動：2～4分

- | |
|---|
| <p>□ 資料のベースは基礎研修資料。基礎研修と講師が異なる場合、基礎研修時の資料を講師に提供。基礎研修資料を参照して作成する場合は、資料上、参照元を明記するよう伝える。</p> |
|---|

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

3. 働くことの意義

獲得目標

- 「働くこと」さらには「ピアサポーター又は専門職として働くこと」の意義や価値について、再確認する。
- 協働するピアサポーター又は専門職などのチームメイトの働く意義や価値を知ること、相互理解を深め、協働する意義を再確認する。
- 演習における意見交換を通して同じように働く仲間
の存在、つながりの大切さを再認識する。

講義時間

30分

演習時間

60分

講師候補

※ピアと
専門職の
対話形式

●ピアサポーター
小坂 和誠 様

●専門職
平良 様

伝えたいこと

(国実施要綱：「ピアサポーターとして職場にもたらす効果」)

本項目の講義の後の演習では、実際に受講者に意見交換してもらおう。そのため、「自分の場合はどうだろう」と考えながら聞いてほしい、ということを講義冒頭に伝える。

- 働くこと自体の自分にとっての意義（なぜ働いてみようと思ったのか）
- ピアサポーター又は専門職の、その役割で働くことの意味（なぜピアサポーター又は専門職として働いてみようと思ったのか、どんな時にやりがいを感じるか、その役割で働く上で大切にしていることとは）
- ピアサポーターと専門職などの仲間との協働の意義（研修を受ける中で感じていただきたいこと）

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

3. 働くことの意義

事務局からのご相談事項

- 国テキストp.11「働く上で大切にしていること」「働き続けるための要素や工夫」については、別項目「ピアサポーターとしての継続的な就労」との棲み分けから、本項目では触れないで良いか。（その分、働くことの意義について深めたい。）
- 演習での意見交換の呼び水となる問いかけとは。

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

3. 働くことの意義

演習時間割案

(国実施要綱：「講義『働くことの意義』の振り返り、気付きの共有」)

5分	自己紹介	
5分	個人ワーク	
40分	働くこと自体の自分にとっての意義	<p>Q. なんのために働くのですか</p> <p>→A. 生活のため、社会での居場所</p>
	ピアサポーター又は専門職の、その役割で働くことの自分にとっての意義	<p>Q. あなたがピアサポーター（あるいは専門職）として働くことの意義はどのようなことだと思いますか。</p> <p>→A. ピア「経験を活かす」</p> <p>専門職「人に寄り添う仕事に就きたかった」</p>
10分	全体共有（1～2グループのみ）	

受講者が答えやすい質問設定に。（受講者には赤枠の質問をシンプルに示す）

【ファシリテーターの方に共有したい留意事項】

- 「働くこと自体の自分にとっての意義」と「ピアサポーター又は専門職の、その役割で働くことの自分にとっての意義」のグループワークの時間は、1対3くらいで！
- グループワークの中で、自然とピアサポーターと専門職の協働の意義を感じ取っていただけるような雰囲気づくりができれば。

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

4. 障害者雇用

獲得目標	●雇用される職場を見極めることも大切。雇用におけるピアサポートは、どのような条件下で上手くいくのか学ぶ。
-------------	--

講義時間	40分
演習時間	60分
講師候補	岩崎 香 様

内容

(国実施要綱：「障害者雇用の実際と留意点」)

□ 雇用におけるピアサポート業務

- ・現在は、「ピアサポート業務」だけで報酬を得られる仕組みは、公的制度としてはない。
- ・個々の背景、能力、経験は一人一人違う。また、職場が求める役割やピアサポートのあり方にも違いがある。

□ 雇用におけるピアサポート業務が上手くいくための条件

- ・法人としてピアサポートを取り入れたい理由が明確である
- ・雇用する側とされる側のピアサポート業務への認識が共有できている
- ・一緒に働く同僚がピアサポートの有効性を実感している
- ・ピア自身も自分の経験がどんな場面で支援として有効か理解している

(次のページへ続く。)

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

4. 障害者雇用

内容

- 対人援助職の支援者として働く上で、雇用側から求められること
 - ・ 自分の経験を活かす意欲と能力がある人
 - ・ 精神的及び感情的に安定している人
 - ・ 自分の健康を維持できる人
 - ・ 職場のルールを守れる人
- その人と業務のマッチングについて
 - 3つが重なり合う部分が「ピアサポート業務」となること
 - ・ 仕事（MUST ～私は●●をしなければならない）
 - ・ 能力（CAN ～私は●●ができる）
 - ・ 意欲（WANT ～私は●●がしたい）

（次のページへ続く。）

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

4. 障害者雇用

内容

- 働きつづけるために大切なバランス
 - ・ 身体的要素（生活リズム・体力増進・生命活動）
 - ・ 社会的要素（収入・社会的役割・人格形成・人間関係）
 - ・ 心理的要素（存在意義・自尊心・満足感）

- 当事者としての経験を活用していくために
 - ・ ピアサポーターの経験や知識を支援の場面で活かす仕組みは乏しいのが現状
 - ・ 少し上手いかなかったから無理だと簡単に判断せず、理想と現実のギャップを埋める作業を焦らずに続けていくことが、雇用におけるピアサポート業務を確立することに繋がる

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

4. 障害者雇用

事務局からのご相談事項

- 国テキストp.16「ピアスタッフが活躍できる場所」について、基礎研修・専門研修の内容と重複すること、受講者にはテキストで挙げられているサービス以外の方もいらっしゃることから、講義では触れなくても良いのではないかと。
- 国テキストp.17で、体調管理、自己理解、働く上で必要な心構えの認識の重要性について記載がありますが、次の項目「ピアサポーターとしての継続的な就労」の内容と重複し、当項目で複数のピアサポーターの方から語っていただく想定であることから、本講義では触れなくても良いかと。
- 国の標準的なカリキュラムでは、本項目には演習が設けられているが、次の項目「ピアサポーターとしての継続的な就労」には演習がない。本項目と次の項目を続けて講義後、2つの講義に絡めた演習としてはどうか。（演習の進め方については、後程説明）

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

5. ピアサポーターとしての継続的な就労

獲得目標	●働き続けるために大切な考え方、働き続けるための工夫や自己分析の方法を学び、継続的な就労に繋げる。
-------------	---

講義時間	60分
講師候補 ※複数障害領域からのシンポジウム形式	●統括 岩崎 香 様 ●ピアサポーター 異なる障害領域から2～3名

事務局からのご相談事項

(国実施要綱：「ピアサポーターとしての能力を発揮し、働き続けるために必要なポイント」)

- 次のスライドを登壇者の方にお示しして、本項目に係るご経験をお話いただきたいと考えている（灰色の文字は記入例）。各障害領域に共通する構成としているため、たとえば、「クライシス」などの言葉の使用は、あえて避けている。構成について、ご確認いただきたい。
- 国のテキストでは、演習の具体的な設問が示されていない。また、前の項目「障害者雇用」の内容も絡めて演習を行いたい。演習内容案は別ページに記載しているため、ご意見いただきたい。

(次のページへ続く。)

自己紹介

障害について

- ・身体障害当事者

勤め先について

- ・都内指定特定相談事業所で、相談支援専門員として働いています。

仕事内容

- ・サービス等利用計画の作成、モニタリング

働きはじめた動機

・利用していた事業所で、「ピアサポーターとして働いてみませんか？」と声をかけていただいたのがきっかけです。

・自分の経験を少しでも活かせたらと思い、働き始めました。

働き続けるための工夫

まずは、働くための自己分析から！

・できることとできないこと

支援記録の作成(文字を書くこと)ができません

・得意なこと

人の思いに寄り添って話を聴くことが得意です

どんな人とでも早くに関係を築けます

・働く上で、苦手なことや周囲に知っておいてもらいたいこと

記録作成を手伝ってほしいです。移動時の介助をお願いすることもあります

働き続けるための工夫

周囲に合理的配慮について伝えます

- ・どこまでが自分ひとりでできて、何を手伝ってもらいたいのかを明確に、そして繰り返し伝えるようにしています

事業所外(職場外)での工夫

- ・事業所外に相談者がいて相談に乗ってもらっています
- ・外部のピアカウンセリングの研修を受けています

無理をしすぎているかな？と感じたときは

- ・周囲にはやめに相談しています
- ・無理な時は思い切って休みを取るようにしています

自分らしく

仕事でやりがいを感じる瞬間

- ・感謝の気持ちを伝えられた時
- ・ピアサポーターならではの視点で意見出しをして、専門職と当事者の間の架け橋になれたと感じた時

最後に一言！

- ・自分の強みも活かしつつ働いているなと感じますが、障害への理解について当事者の方から気付かされることもあったり、働くことが自分自身のリカバリーに繋がっているなと感じることもあります
- ・あなたのストレングスを活かした、あなたならではのサポートを！

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

4. 障害者雇用・ピアサポーターとしての継続的な就労

演習時間割案

70分

(国要綱は60分)

(国実施要綱：「講義『障害者雇用』の振り返り、気づきの共有」)

※国実施要綱上は、継続的な就労の演習はなし

1日目の最後

15分	グループワーク	講義を聞いての感想 →振りの投げかけ例 ・自分の強みと弱み、得意不得意、好き嫌いなど、整理し把握していますか？ ・合理的配慮をどんなふうに、伝えていきますか？専門職の方は、伝えられた時に、どんなふうに対応していますか？
5分	全体共有（1～2グループ） 2日目の演習内容紹介	

(2日目に向けて各自検討)

2日目の最初

40分	グループワーク	・職場において、どんな場面でピアサポートの有効性を実感していますか。また、どんな業務にピアサポートの視点を期待できると思いますか。 ・雇用する側・される側・協働する同僚スタッフの間で、認識共有はできていますか。どのようにすり合わせしていったら良いと思いますか。 ※まだ雇用におけるピアサポート業務がない場合、「雇用されたとしたら」「雇用するとしたら」の視点で考えてみましょう
10分	全体共有	

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

5. ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法

獲得目標

●ピアサポーターの専門性を踏まえた発信力を上げる。

講義時間

60分

演習時間

70分

講師候補

講義 堤様
演習 堤様と
専門職1名

講義内容

(国実施要綱：講義「職場内や関係機関との連携の中で発信力を高めることによる専門性の発揮方法」、演習「講義の振り返り、気づきの共有、事例検討等」)

- 多職種・多機関によるチームの必要性
- 本人参加の機会を保障するチームの重要性
- チームにおけるピアサポーターに求められる心得や役割（アドボカシー、橋渡し役など）
- ピアサポーターの専門性を発揮するには

事務局からの確認・ご相談事項

- そもそも、獲得目標である「ピアサポーターの専門性を踏まえた発信力」とは。
- 本項目の講義と専門研修の講義内容との棲み分けは。
→本講義の獲得目標「発信力を上げる」に焦点を当てて、講義内容を組み立てる必要有。
→たとえば、ピアサポーターのチームにおける役割やメンターの定義などは、専門研修の「チームアプローチ」と重複するため、「**どういう場面でピアサポーターの発信力が求められるのか**」「**その際の心得や専門性を発揮するための留意点や工夫**」などといった切り口で講義ができると良いのではないか。
- 具体的経験に基づいた方法論を伝えると説得力が増す。講義内で複数の事例紹介ができると良い。
(異なる障害領域からの事例が紹介できると良い。専門研修の「チームアプローチ」での2事例を切り口を変えて検討しても面白いかもしれない。)

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

5. ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法

演習内容

(国実施要綱：「講義『ピアサポーターとして現場で効果的に力を発揮するための準備』の振り返り、気づきの共有」)

- 演習は事例検討。国テキストの一事例について検討する。

演習時間割案

※野中式事例検討

5分	【全体】 演習のやり方を説明（演習統括者①or②）
5分	【全体】 事例の提示（演習統括者①or②）
20分	<p>【全体】 質問による情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習統括者①（ピアサポーター）が、事例内容について受講者からの質問に答える。 （各グループから2～3巡回して聞けると良い） ・ 演習統括者②（専門職）が、質疑応答内容を、会場内ホワイトボードに板書
5分	【個人ワーク】
15分	【グループワーク】
15分	【全体共有】
5分	<p>【統括】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演習統括者①（ピアサポーター）：ピアサポーターの立場から統括 ・ 演習統括者②（専門職）：専門職の立場から統括

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

5. ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法

事務局からのご相談事項

- 国テキストp.27の「事例」の情報を、事例内容として受講者に提示します。概要を分かりやすく示せればと考えています。P.27の「補足」の情報は、「裏情報」として、質問対応に備えて、演習統括・ファシリテーターの方々に共有しておこうと思いますが、この内容以外で、質問に備えて準備したほうが良い内容はありますか。

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

5. ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法

委員会での各委員からのご意見

- 当事者不在の検討が型だと思われぬように。（宮本委員）
- 身体障害領域でも、本人不在で検討することはある。（秋山委員）
- 本人とピアとの間の信頼関係がきちんと築かれた上で、これから専門職も含めて三者で打合せをするに当たり、まずピアと専門職で打合せをする、という場面設定をしっかりと示す。講義では、ピアアドボカシーのための実現などの内容が書いてある一方で、演習では本人不在の事例検討になってしまうのは、乖離しているので、繋ぎ（本人とピアが信頼関係を構築した経緯）が必要。

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

5. ピアサポーターとしての効果的なコミュニケーション技法

ご意見踏まえた全体構成

□ 講義（以下の事例紹介をピアサポーターの方からしていただく）

- ・ チームにおいて、ピアサポーターの発信力が求められた場面
- ・ その際の心得や工夫

たとえば、

大きく【本人との信頼関係の構築】⇒【本人了承の上、本人不在での専門職との検討】⇒
【本人と専門職での三者での検討】の例が行っている。ただ、この流れはあくまでの一例。

本人との信頼関係を構築する上では、○○のようなことに留意している。本人目線での支援を行う上では、本人の状況をいかに把握するかが大切。この後の事例を通して、本人の状況をしっかりと把握することの大切さを学んでいただきたい。

本人不在の専門職との打合せで注意することは○○

三者での検討に当たっての留意事項は○○

東京都障害者ピアサポート研修 フォローアップ研修 概要

6. ピアサポーターとして現場で効果的に力を発揮するための準備

獲得目標	●これまでの研修の内容を振り返り、ピアサポーターの意義や役割について、改めて確認するとともに、専門職との協働のあり方について、一緒に考える。	講義時間	30分
		演習時間	40分
		講師候補	未定

講義内容

(実施要綱：「ピアサポーターとして雇用される上での準備、留意点」)

- なぜピアサポートなのか
- ピアサポートの専門職との協働・連携
- ピアサポーターの力の発揮の仕方

演習内容

(実施要綱：講義の振り返り、気づきの共有)

あなたのリカバリーの原点は何ですか。言語化してみてください

ピアサポーターとしてどんなことがしたいですか（ピアサポーター以外の方は、ピアサポーターとどんなことがしたいですか）